

二本松しんきん城山プール 入場者5万人達成!

今年の3月25日にオープンした二本松しんきん城山プールの入場者が、オープンから約5カ月後の8月22日に5万人となり、記念セレモニーが行われました。

5万人目となったのは、山下結子さん(7歳・愛知県在住)で、父親の実家がある二本松市へ帰省中、父母や祖母ら家族7人でプールへ訪れていました。結子さんは「うれしい。思う存分水遊びしたい」と笑顔を見せていました。

セレモニーでは、新野市長、指定管理者であるフクシ・エンタープライズの伊藤光幸東北支店長、ネーミングライツスポンサーである二本松信用金庫の守谷善英営業推進部長から記念品が手渡されました。

今回の5万人達成は、オープン当初の想定を上回るスピード達成となりました。



▲5万人目となった山下さん一家ら

安達ヶ原ふるさと村の曼殊沙華 「真夏のクリスマス」が咲き誇る

9月上旬、安達ヶ原ふるさと村で白い曼殊沙華(彼岸花)約700株が見頃を迎えました。

白い曼殊沙華は早咲きの彼岸花で、品種名は「真夏のクリスマス」。豪華な雰囲気のある白花で、ネーミングのうまさもあり人気があります。

安達ヶ原ふるさと村とその周辺には、地元大平地区住民有志で構成する「安達ヶ原ふるさと村の景観を良くする会」の手により、平成27年からこの曼殊沙華の球根が植えられています。9月中旬~10月上旬には、赤い曼殊沙華約50万株以上を楽しめる予定です。



県総体スポーツ少年団体育大会で優勝 小浜バレーボールスポーツ少年団が11年ぶり2回目の快挙

8月19日~20日にかけて喜多方市で行われた福島県総合体育大会スポーツ少年団体育大会バレーボール競技で、小浜バレーボールスポーツ少年団が優勝し、その報告のため9月13日に市役所を訪れました。

小浜バレーボールスポ少の団員は、小浜小児童のほかに、二本松北小と油井小の児童が加わり全部で14人。10月に山形県で行われる東北大会へ向け、日々練習を重ねています。主将の佐々木なこさん(二本松北小6年)は、「東北大会では、監督から教えていただいたことを一つ一つプレーに出し、また良い報告ができるように頑張りたい」と大会へ向けて抱負を述べました。



にほんまつ青少年フォーラム ずっと好きなまちでいたいから

9月10日、二本松しんきん城山プールの多目的室にて、安達高校、二本松工業高校、安達東高校に通う高校生11人が集まり、「未来へ～ぼくたち・わたしたちのメッセージ～」と題して、二本松市青年会議所主催の「にほんまつ青少年フォーラム」が開催されました。二本松の好きなところや改善してほしいところなどを、高校生の目線で話してもらい、彼らの声を今後の二本松の発展に役立てたいというこの企画。



▲市内の高校に通う3年生11人が、日ごろ考えている二本松への思いを発表した



「ずっと二本松で育ってきたから、提灯祭りが大好き」「市内に高校生が遊べる場所がないのが残念」「住みよい街にしよう、良い街にしようという気運が高まっていると感じる」といった意見が出て、参加した新野市長も、高校生たちの率直な意見に耳を傾けていました。参加した高校生の感想には「同世代の人と交流できて良かった」「自分たちの手で二本松市を変えていける気がした」といった頼もしい意見が多くあり、青年会議所では今後も、若者の声を聞くことができるこうした機会を積極的に増やしていきたいということです。

ちようよう 重陽の芸術祭オープニングイベント 最先端アートを市内でご堪能あれ

9月9日、昨年に引き続き二本松市内を中心に開催される『重陽の芸術祭』のオープニングイベントが行われました。

9月9日は「重陽の節句」。県立霞ヶ城公園の天守台では、二本松藩にゆかりのある芸術家オノ・ヨーコさんから寄せられた言葉を刻んだプレートの除幕式が行われ、その後出席者全員で、菊茶による重陽の乾杯を行いました。



▲オノ・ヨーコさんの言葉を刻んだプレートの除幕式の後、重陽の乾杯をする出席者



▲安達ヶ原ふるさと村農村生活館で行われた朗読音楽劇「黒塚」の様子

安達ヶ原ふるさと村農村生活館で行われた夜の部のオープニングイベントでは、朗読音楽劇『黒塚』が上演されました。安達ヶ原の鬼婆伝説を、サクソやピアノの音色に合わせて朗読されるこの公演を一目見ようと、東京都など県外からもお客さまが押し寄せ、用意していた観客席が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。

重陽の芸術祭は、菊と日本酒による「重陽」を主軸に、二本松の菊人形展開催に合わせて市内各所で行われます。詳しくは今月号の広報にほんまつ5ページに掲載しています。